

パンタナール通信

南北米福地開発協会 会報 2004年2月1日 第5号



パラグアイ川に流れる水草

パンタナール（地球上最大の湿地帯）神秘



らをいの椎る餌て果そるしも繁発す。も繁著動無と魚とのい、た殖的た殖し物脊なのし結はあらをな

南米パンタナールは地球上で最も原始的でかつ生物学上最も豊かな環境を保持している地域である。パンタナールという言葉は「パンタノ」に由来しており、通常沼地、低湿地あるいは湿地と訳されている。しばしば世界最大の淡水の地帯として紹介されるこのパンタナールは、ブラジル、パラグアイ、ボリビアにまたがる数百万ヘクタールの広がりを持っている。その並外れて豊かで多様な動植物群とその景観は、世界的な大自然の驚異とされている。この地域は目を見張るような美しさを持ち、並ぶもの無い野生の聖域であり、650種類という鳥類、250種類の魚、80種類の哺乳類、数千といわれる蝶、数知れない極彩色の花々に満ちたエコロジカルな楽園である。ホエザルやカピバラ、アナコンダやカaimanwá、絶滅寸前のジャガーや手のり鹿などがパンタナールをその住処としている。季節によつて生ずる変化はパンタナールに特色を与え、その動物群に予測可能な行動を取らせるようになるのである。氾濫時、川魚の見せる通常の動きは氾濫地域への進入である。又、魚が餌を取り成長するのは、水位の上がつたこの時期である。また、川の氾濫時期は殆どの川魚の産卵の時期とも重なつてゐる。この時期ならば稚魚が生まれ出ても餌が豊富にあり身を守るものもあることになる。平原に広がつてゐる氾濫水は栄養分豊かで、水生植物や微生物の爆



ズグロハゲコウ（トユユ）の群れ

乾季の到来は異なつたシナリオの展開をもたらす。水が退くとかつての水に覆われていた場所が今度は動物達が来て餌を漁る場所となるのである。かなりの数の魚が本流に戻れず取り残されてしまうので、取り残された魚の水溜りはズグロハゲコウ（トユユ）や純白のオオシラサギ、その他の極彩色の鳥達の祝宴の場になる。パンタナールは世界でも有数の動植物が最も良く保護してきた場所である。鳥類はとりわけその種類が豊富である。パンタナールは渡り鳥の重要な停泊地であり、越冬地である。この豊富な生物の多様性が、この地域を生物学上のスープーマーケットと言わしめている。またこの湿地帯は自然界的に鳥の大規模な水を供給し、水上運搬システムを提供するばかりか、沈殿物や汚れを取り除く事によつて下流にいる何百万人もの人々の水質を改良していることにもなつてゐる。洪水を調節する機能もパンタナールの大きな利点である。パンタナールはパラグアイ川の調整弁の役割を持つてゐる。出水時の水位を広範囲にわらせて下げる事により下流での洪水の危険を和らげている。これらの多くの価値があるにもかかわらず湿地帯と対しては歴史的にはそこを失地帯という感覚で見て來たのである。

一日研修会

一〇〇四年度計画
研修会計画

一月十七日	三月十三日
二月二日、二十二日	五月十五日
三月二十日、二十一日	七月十七日
四月十七、十八日	九月十八日
五月二十二、二十三日	十一月十三日
六月十九、二十日	
七月十八、十九日	
八月二十一、二十二日	
九月十九、二十日	
十月二十三、二十四日	
十一月二十、二十一日	
十二月十八、十九日	

一月十一、十二日
二月二日、二十二日
三月二十日、二十一日
四月十七、十八日
五月二十二、二十三日
六月十九、二十日
七月十八、十九日
八月二十一、二十二日
九月十九、二十日
十月二十三、二十四日
十一月二十、二十一日
十二月十八、十九日

第一回パンタナールツアー

四月二十九日～五月十五日

第二回パンタナールツアー

十月九日～二十三日

国際協力青年奉仕隊日程

八月二十五日～九月十四日

参加希望者は

南北米福地開発協会事務局
東京都渋谷区神宮前六一十九一十四

電話 (03) 5774-0544
ファックス (3407) 0145
神宮前ハッピービル十階

担当者

柴沼邦彦